

家庭用マスクの用途別種類

- **花粉対策用**

花粉粒子の捕集試験をしており、
約 $30\mu\text{m}$ 以上の粒子をカットするフィルタを
採用、息苦しさを軽減

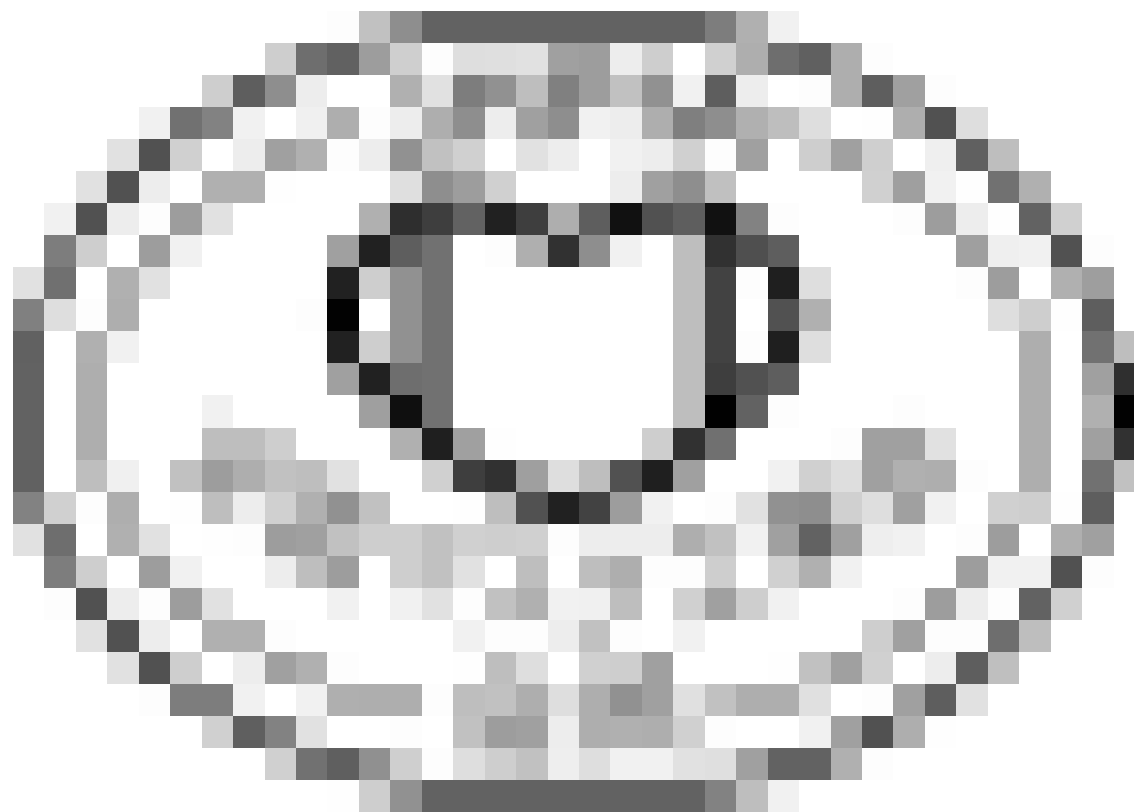
- **風邪、ウイルス飛沫用**

BFE（約 $3\mu\text{m}$ ）、VFE（約 $1.7\mu\text{m}$ ）の試験を行い、
99%までのフィルタ捕集効果を表記

- **PM2.5対策用**

PFE（約 $0.1\mu\text{m}$ ）の試験を行い、
99%までのフィルタ捕集効率を表記

- 家庭用マスクは、外からの微粒子の侵入を完全に防止することには限界があることから、「マスクは感染（侵入）を完全に防ぐものではありません」を8ポイント以上の文字で表記
- フィルタ部の品質性能について数値表示をする場合、試験方法または試験機関を表示すること
- 表示されている事項と試験方法に対応すること



マスク工業会会員名簿（87社）

- 1 株式会社アイテム
- 2 アイリスオーヤマ株式会社
- 3 阿蘇製薬株式会社
- 4 株式会社アドフィールド
- 5 伊藤忠商事株式会社
- 6 株式会社井上工業
- 7 イワツキ株式会社
- 8 宇都宮製作株式会社
- 9 A. R. メディコムインク・アジア・リミテッド
- 10 有限会社エージェントワン
- 11 株式会社エーゾン
- 12 株式会社N&Nコーポレーション
- 13 株式会社NBCメッシュテック
- 14 株式会社エフスリィー
- 15 株式会社エムケイエンタプライズ
- 16 株式会社エリーゼント
- 17 大木製薬株式会社
- 18 オオサキメディカル株式会社
- 19 オーミケンシ株式会社
- 20 小津産業株式会社
- 21 花王株式会社
- 22 川島繻帯株式会社
- 23 川本産業株式会社
- 24 クー・メディカル・ジャパン株式会社
- 25 クラレクラフレックス株式会社
- 26 株式会社グリーンテック
- 27 興和株式会社
- 28 株式会社COCORO
- 29 小林製薬株式会社
- 30 株式会社サイキョウ・ファーマ
- 31 サンエムパッケージ株式会社
- 32 三光化学工業株式会社
- 33 株式会社三洋プロセス
- 34 サンリツ株式会社
- 35 熙樺株式会社
- 36 株式会社重松製作所
- 37 株式会社資生堂
- 38 株式会社白鳩
- 39 昭和紙工株式会社
- 40 スズラン株式会社
- 41 スリーエムヘルスケア株式会社
- 42 大衛株式会社
- 43 大王製紙株式会社
- 44 大正製薬株式会社
- 45 ダイワボウノイ株式会社
- 46 ダイワボウポリテック株式会社
- 47 株式会社竹虎
- 48 玉川衛材株式会社
- 49 株式会社ティー・エイチ・ティー
- 50 帝人フロンティア株式会社
- 51 東洋化学株式会社
- 52 東レ・ファインケミカル株式会社
- 53 株式会社トレードワークス
- 54 株式会社浪速製作所
- 55 日昭産業株式会社
- 56 日進医療器株式会社
- 57 株式会社日東社
- 58 日本アムウェイ合同会社
- 59 日本バイリーン株式会社
- 60 日本メディカルプロダクツ株式会社
- 61 株式会社白元
- 62 白十字株式会社
- 63 ハクゾウメディカル株式会社
- 65 株式会社長谷川綿行
- 66 H A D A R I K I 株式会社
- 67 原田産業株式会社
- 68 株式会社ビー・エム・シー
- 69 株式会社ビー・エヌ
- 70 株式会社ピエラス
- 71 ピップ株式会社
- 72 株式会社ヒューリンク
- 73 株式会社ファーストレイト
- 74 株式会社富士
- 75 株式会社ホスピタルサービス
- 76 松前衛生材料株式会社
- 77 ミドリ安全株式会社
- 78 モルザ株式会社
- 79 株式会社ヤガミヘルスケアコーポレーション
- 80 株式会社大和工場
- 81 株式会社裕源
- 82 ユニ・チャーム株式会社
- 83 株式会社ヨコイ
- 84 横井定株式会社
- 85 株式会社リブドゥコーポレーション
- 86 ロート製薬株式会社
- 87 ワンダフル日本株式会社

N95マスクについて

産業用マスクで作業者を空気中の微粒子から守るために用いるが、近年医療機関で感染防止に用いられることが多い。日本の労働安全基準に基づく防塵マスク規格DS2が相当する。

- 米国労働安全研究所（NIOSH）が認定。
- 製品には認証番号が表示されている。
- Nは、耐油性がないことを示し、マスク性能として、試験粒子（ $0.3\mu\text{m}$ ）以上を95%捕集できる。
- 作業用で長時間の使用には向いていない。

マスクの着用（咳エチケット）と手
洗い、
うがい

PM2.5の微粒子としての影響

粒子が小さいため肺の奥（肺胞）まで到達し、

- **物理的影響**

同じ質量で表面積が大

表面積が大きく細胞への活性刺激が大きい

- **化学物質の影響**

直径が小さい

細胞内にとけ込み血液中を循環し全身に影響

粒子の大きさと到達度

- 5.0 μm 以下で肺胞に達し始める
- 1.0 μm でも肺胞に達するのは吸入量の1~2割のみで、残りは再び排出される。
- 20nm=0.02 μm 付近が肺胞への沈着が最も多く50%程度。これ以下では肺胞より上気道への沈着が多くなる。
- 鼻呼吸よりも口呼吸でより奥に達しやすい。
(屋外での運動→口呼吸の増加)
- 運動などにより、換気量、呼吸数が増えると1~3 μm の粒子を中心に沈着量が増える。

注意が必要な人

- ◆基礎疾患のある人
- ◆高齢者
- ◆乳幼児、妊婦
- ◆学童期
- ◆成人（屋外活動中心）
- ◆喫煙者

マスクのつけ方

- ◆自分の顔のサイズにあったマスクを探しておく
- ◆子供は子供用のサイズを着用
- ◆鼻の両脇やあご、頬のラインに隙間のできないようにする
- ◆つける場所、状況を選ぶ（通勤・通学、買い物）
- ◆マスクの着用は保湿効果も期待でき、のどを守る
- ◆慣れたからといってまったく着けないのは危険